

# 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670104365
法人名	有限会社 ベストケアライフ
事業所名	グループホーム かわかみ
所在地	鹿児島県鹿児島市川上町1854番地1 (電話) 099-243-7735
自己評価作成日	令和4年3月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/">http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和4年3月28日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)】

コロナ禍で自由に外出・他者との接触が叶わない中で、立地的環境より中庭を活かして外気と触れ、室内だけの活動に留まらないよう工夫をしている。家族との接触も、ワクチン接種の有無を起点に、距離感の保持、換気の継続、接触させない等、条件下により対面式面会を行っている。流行数によっては、オンライン面会のみ限定する時期も設けるなど柔軟に対応している。医療面に関しては罹り付け医との繋がりを大切にしつつ、入居者の方の身体状態の推移を見ながら様々な視点で、ご本人のその時々適切な支援の必要性を都度面談などを通して家族、医療等とすり合わせを行っている。自由に施設内への入室が叶わない家族の触れ合いへ寄り添う為に、状態の確認、状況報告等を月の便りだけでなく、オンラインのツールを使う等工夫を凝らし静止画・動画等で状態が判り易いよう報告の手段を考慮している。入居者側のケアにおける意思疎通、統一がなされるように、職員のレベルアップを図った研修内容をインシデント報告等を活かしながらその時その時に盛り込むよう計画している。受動的な研修だけでなく、実地研修も少しずつだが増やしていきながら、体感してスタッフ間で認識のずれが無いようにスタッフの声も盛り込みながら繰り返して基礎を定着できるような学びの場を設けている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点 (評価機関記入)】

- ・当事業所はコロナ禍で面会が制限される中、事業所で準備されたスマートフォンのラインツールでオンライン面会や利用者の生活状況を動画や静止画で、家族に報告している。また、毎月、「かわかみだより」を発行して、写真を添付し、生活や健康状態を報告し、家族の安心に繋がっている。
- ・ホーム長や管理者は定期的に職員会議やグループミーティングを行い職員全員が学ぶ機会を作り自己研鑽に努めている。職員同士も気軽に意見交換ができ働きやすい環境で離職率が低い。
- ・コロナ禍で外出支援が困難な中、下肢筋力低下予防で股関節・腹筋・背筋を意識してソフトボールを使った体操を取り入れたり、それぞれの身体能力に合わせたレクリエーションを工夫し取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	“みんなで助け合い安心のある暮らし”を常に意識を持つようにしている	理念は玄関に掲示しパンフレットにも掲載している。コロナ感染防止の為に、申し送りはユニット毎に回覧板で確認、共有し実践に繋げている。毎月職員会議で理念に基づくケアの振り返りを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍である為に、近隣との付き合いは最低限であるが町内会に加入し世間での様子や防災事情等相互的な協力体制であるよう交流は継続している。	町内会に加入し回覧板で地域情報を得ている。コロナ禍で地域行事は自粛しているが、緊急時の近隣住民への声かけや散歩時の挨拶はしている。野菜の差し入れもあり、地域とのつながりは大切にしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	コロナ禍で、積極的に地域との接点を見出すような事は難しいが、町内会を始めとして認知症をより知っていただけるような取り組みとして、相談窓口になれるように常々話題にはするようになっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>事業のサービス内容に関して、利用者だけでなく、家族・地域住民の方々に参加いただき、取り組んでいる内容を知っていただく事から努めている。その中で出る意見（現在としては家族とのやり取りが主流であるが、より理解していただけるように具体例を出しながら意見交換を行い、事業運営に活かせるようにしている。</p>	<p>2ヶ月に1回、内部関係者のみで会議を開催し、利用者の生活状況や行事予定等を話し合っている。運営推進委員に議事録で郵送し報告している。インシデントやアクシデントの報告は一覧表を作成し一緒に郵送している。意見はサービス向上に活かすようにしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>市町村（地域包括支援センター含む）とは事業ごとに尋ねたい案件などがある場合に電話で確認したり、事前に現状としての課題を提示し、今後の事を想定した対応のアドバイスを頂くなど協力関係の構築に努めている。</p>	<p>市担当者とは直接窓口に出かけ書類の更新したり、電話でホームの状況を伝え、アドバイスを貰うなど、連携・協力関係を構築している。福祉担当者の訪問や電話で情報を共有している。市主催の研修会もZoomで参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>拘束について職員会議の中で話をしたり勉強会などを行っている</p>	<p>マニュアルがあり年4回身体拘束廃止委員会で虐待やスピーチロックも含め研修会を開催している。毎月の職員会議でも資料に基づいて勉強会や課題を各自が発表し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。コロナ感染防止の為に日中の玄関施錠をしているが、外出希望時は中庭に出て一緒に話をしたり見守り支援をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>どのような事例が多く散見されるのか、実際私たちの日常に潜む事の洗い出しを行い検討しあう。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>独居老人や自立支援の困難な疾患などで利用せざるを得ない事例など、具体性を持ち都度スタッフへ情報提示・理解を深めるよう努めている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>相談時からの家族間認識の差異を小さく出来るよう具体的な案件を提示し、都度Q&amp;A式で理解してもらえるよう繰り返し説明している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者要望は日ごろの接する支援の中で確認し、それも含め家族に検討してもらい方針が定まり次第スタッフ間での共有に努める。</p>	<p>利用者からは日々の関わりの中で意見や要望を聞いている。家族からは面会時やラインで状況報告時に意見や要望を聞く機会を設けている。毎月、たよりでも郵送報告し意見を聞き、運営に反映させるようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>職員会議等もしくは個々に開く機会を作っている</p>	<p>管理者は月1回の職員会議や日常の中で意見や提案を聞く機会を設け、副ホーム長に報告している。必要時は個人面談で相談など聞いて対応している。職員へ個別に必要な支援のポイントを貼付したり情報統一のため、記録の改善を行っている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>個々の意見も聞きながらシフト等働けるようにしている</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員会議等で課題を出しここで勉強ができ研修を受けている</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>交流をする機会がないかZOOM等でも研修など行っている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人の話をよく聞く。少しでも要望に近づけるように心掛けています。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>困っている事がどんなことなのかしっかりと話しを聞いたうえで支援を行っている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人家族の要望を聞いてそれに合った支援をしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>本人としっかり話をして楽しく安心して暮らせるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>本人の生活史へ理解を深め、関係性の機微に留意しながら現状の情報共有に繋げ、繋がり続けていくよう発信を絶やさない。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>電話・オンライン面会等が必要に応じて行っている。</p>	<p>コロナ禍の為、条件付きの対面式面会・オンライン面会・ビデオ電話や電話の取り次ぎ、年賀状などの取次支援をしている。ラインで利用者の動・静画を送り、家族の安心に繋がる等、関係が途切れない支援に努めている。理美容師については訪問での活用をしている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>レクリエーションを一緒に行いながらコミュニケーションを取るようにしている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>契約終了後の医療機関での様子を事あるごとに確認、再相談を受けるなども支援する。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様、それぞれのパターンが違う為、出来るだけ話し合いの場を設ける。本人の意向に添えるよう考える。	日常の中で積極的に声かけし、一人ひとりの思いや意向を聞いている。毎日、朝の居室清掃時や入浴時に話されることが多い。困難な場合は、声かけ時の反応、ケア時の態度や言動等を職員間で意見交換し、本人の意向に添えるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来るだけ本人の希望を聞いてサービス利用の経過に努め日々把握している。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の日常の生活から身体と精神状態から自分らしさを導いて行けるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画と本人様たちの現状（身体・精神）の違いをご家族様の理想を踏まえ、チームで生活の日々を話し合い作成している。	本人や家族の意見や希望、職員間の意見、主治医の意見を参考に個別の状況を把握し、現状の生活に即した介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月毎であるが1ヶ月で確認し、見直すこともある。6ヶ月で見直し短期目標もその都度見直している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人様の日々の生活への理解を図りながら現状の情報共有に努め、ご家族様との連絡を取り合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	予測を念頭にいった行動に努め、ニーズに合う状況はどのような状態である場合なのか、事前に機関や医療と密に相談を重ねておき、情報提示し、本人や家族が混乱しないよう地固めに努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で油断できない状況が継続している事から地域との頻回な話し合いは出来ていないが、相互協力し合える状況の理解に対してあいさつ回りを兼ねた上ですり合わせを行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診ある事に内容の確認、ご家族の希望を出来るだけ聞き納得いかない場合再度受診し相談をうける。	本人や家族の要望を聞き、複数のかかりつけ医や協力医療機関と事業所の関係を築きながら、定期的な往診や2週間に1回の訪問診療、歯科の訪問診療等、24時間の医療連携体制で適切な医療が受けられるよう支援している。他科受診は基本的に家族同伴であるが職員が同伴することもある。結果は電話等で報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>個人の身体機能、状態などの変化に気づき、報告をし診断を受けるように支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>医療者（医師・看護師・栄養士・相談員等）と連携し、状態把握に努めると共に常々悪化への懸念を報告し、迅速な対応が行えるように選択肢を作るよう努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>家族に説明をし意向の確認をしながらケアに取り組んでいる。</p>	<p>入居契約時に事業所で説明をして同意書を貰っている。重度化した場合、主治医から家族に直接説明を行い、医療必要時は医療機関へ転移することもある。看取り事例も有り、看取りの場合は家族用に椅子やソファ等の環境づくりを整えている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時などは管理者へ連絡する研修（対応）を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回以上の防災訓練を行っている。</p>	<p>年2回定期的にマニュアルを下に昼夜想定での防災訓練を実施している。1回は消防署指導のもと消火・通報・避難誘導訓練を行い総評を貰っている。2回目は地震想定での避難訓練について話し合い、手順や避難経路の確認、入居者状態の確認の必要性を共有している。備蓄として米・水・缶詰・乾麺等がある。ガスコンロ・懐中電灯もある。防災頭巾は居室横に下げている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	居室内でのパット交換時入口の戸を閉める配慮	マニュアルがあり年1回研修会や必要時職員会議で勉強会、グループミーティングを実施している。トイレ誘導時は小さな声で耳元近くで話しかけている。トイレ使用時はドアを閉めて時々声をかけている。入室時はノックをしたり、声をかけたりしている。毎日、着る洋服を選んでもらっている。羞恥心に配慮し利用者の特性に応じた声かけや対応に努めている。		
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	利用者様の話をよく聴き出来る限りご本人の希望に添えるようにしている。			
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	いくつかの選択の中からお自分の希望を聞いて過ごしていただく。			
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	出来るだけご本人の希望を聞いて自己決定のできる人には決めていただく。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューによって色合いとか盛り付けなど工夫して食欲が出るような配膳にしている。下膳できる方にはしていただき見守る。	好みや嚥下機能に応じて普通食やミキサー食・代用食で提供している。誕生日には本人の好きなものを提供し、季節の行事食も楽しめるよう盛りつけも工夫している。利用者と一緒に皮むきや下ごしらえ・台拭き・配膳・下膳等、一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	10時、15時のお茶の時間食事の時の味噌汁・お茶・下膳する前に声掛けする。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方には声掛け見守る介助の方には職員がコップ歯ブラシを支援で加勢をする。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人のタイミングを診ながらトイレ誘導。自立しておられる方々にはパット・排泄確認をする支援をする。	排泄チェック表でパターンを把握し、利用者の訴えや仕草でトイレ誘導し、トイレでの排泄支援をしている。居室での放尿や漏便が、職員間の連携や見守りで、トイレ排泄可能となっている。便座の安定した座り方を工夫し汚染減少にも繋がっている。トイレの場所が把握できない利用者に声かけ誘導することで、トイレで排泄ができるようになった事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の軽体操、水分の摂取をなるべく声掛けする。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	1人1人の体調に合わせてシャワー浴・湯船浴をしてもらい本人の訴えにより内容を変更するなど対応している。	入浴は週3回午前中を基本としているが、希望や状況に応じて午後も支援している。寝たきりの人は毎日清拭をしている。拒否者は、声掛けのタイミングを工夫したり、人を変えたり時間をずらしたりしている。無理強いはしていない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	声掛けはするが無理にホールに出て来ることは強要せず、ベッドで休んでいただくなども柔軟に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が口に残っていないか確認。水の量をしっかり飲んでいただく。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションにおいて、文字合わせ等やりたい物を自分で準備し、もしくはされたり、こちら側が提示したりしている。童謡や演歌等を流して昔を懐かしむ等していただけるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>コロナ禍で面会、外出は控えている為、家族との面会時は条件付きで実施（オンライン面会を始め、距離を保った対面式も同様に行っている）</p>	<p>コロナ禍でほとんど外出支援ができない状況であるが、テラスで日光浴や外気浴、個別に中庭での散歩支援をしている。医療機関受診での外出や初詣支援をしている。それぞれの利用者に合わせて施設内での、レクリエーションや体操・脳活性化トレーニングなどを工夫している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>入居者様が普段遣う品物を事務所が管理し、代行購入をしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族からの電話は自身で会話ができる方には対応している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節の変化毎に飾り物を廊下やホールに飾り五感に刺激を与えるよう工夫している。ソファで休まれる方もおられれば、テラスで花を観たり（夫々で花鉢を作るなども行っている）日当たりの良い所で過ごされたり好き好きにさせていただけるよう努めている。</p>	<p>ホールの天井は遮光シートが貼られ、常時換気を行ない、消毒付き加湿器・エアコンで快適な環境を整えている。廊下や壁には貼り絵やちぎり絵・塗り絵などが飾られている。ソファでゆっくりしたり畳部屋もある。テラスには花鉢を置いて季節を感じるができるように工夫している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでテレビを観たり演歌（年代的な配慮から流行していただろう）CDを聴いたりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまでと変わらないような本人の使い慣れたものを持ち寄っていただき、生活できるようにしている。	電動式ベッドや収納可能な畳ベッドが有り、状態に応じて活用している。居室はエアコン・洗面台・クローゼット・タンスが設置されている。寝具類は持ち込みである。テーブル・椅子・テレビ・ラジカセ・ラジオ・家族の写真等を飾り、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	名前などを付けてプライバシーに注意しながら、誰でもわかりやすいように個々に応じて対応している。		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない